

写真の中の「昭和初期郷土教育」

－千葉県長生郡豊岡尋常高等小学校「我が校郷土教育施設経営の断面」 (1934年)から－

山田恵吾 埼玉大学教育学部総合教育科学講座

キーワード:写真、昭和初期、郷土教育、教員社会、千葉県

1. はじめに

本稿は、千葉県長生郡豊岡尋常高等小学校が作成した写真帳「我が校郷土教育施設経営の断面」(1934年、茂原市立豊岡小学校所蔵)に所収された写真史料を通して「昭和初期郷土教育」の一側面を明らかにするものである。

「昭和初期郷土教育」に関しては、経済恐慌に伴う農村不況への対応として、文部省主導の愛国心の涵養を主眼としたものと、郷土教育連盟を中心とした児童の社会認識力育成を通じて社会改革をねらうもの、この両者の対立構図の中に多くの蓄積を認めることができる¹。近年ではこうした枠組みを超えて、民俗学との関連性に注目した研究²や師範学校の『総合郷土研究』を分析した研究³、地方教育会や地域社会との関係性から分析した研究⁴など、多様な側面から研究が進められている。

これら従来の研究蓄積は文書史料に基づくものである。郷土教育に関する写真史料は断片的には存在するものの、組織的・継続的な郷土教育の取り組みの跡を示す写真史料となると、管見の限り本稿が検討対象とする「我が校郷土教育施設経営の断面」が唯一のものとなる。まずは、この貴重史料の分類整理と内容紹介を本稿の第一の課題とする。

写真史料は文書史料を視覚的な側面から補う役割にとどまらず、文書によっては知り得ない実践や取り組みの存在を明らかにする。

当然のことながら、写真は現実のすべてを映し出しているわけではない。写真は切り取られた現実であるとともに、切り取ろうとした撮影者側のものの見方・意図を映し出すものである。つまり、写真には傾斜した「現実」を残そうとした撮影者の意図、言い換えれば、構図を選定あるいは作成し、さらに写真帳として編集した教員たちの認識に迫る史料的な可能性がある。

本稿では、そのような写真史料の性格を踏まえながら、第二の課題として、これまでの研究では見えてこなかった「昭和初期郷土教育」の具体相を明らかにするとともに、写真に示された学校の郷土教育への課題認識と取り組みを検討することとしたい。

2. 豊岡尋常高等小学校と郷土教育

千葉県長生郡豊岡尋常高等小学校(以下「豊岡小学校」と記す)の郷土教育への取り組みは、千葉県教育百年史編さん委員会編『千葉県教育百年史』第二巻(1974年)によって研究

の先鞭が付けられ、拙著『近代日本教員統制の展開-千葉県学務当局と小学校教員社会の関係史-』（学術出版会、2010年）等⁵によって全体像が明らかにされているので、これらに依拠しながらその概要についておさえておくことにしたい⁶。

豊岡小学校の郷土教育への取り組みは、千葉県学務当局の「教育の郷土化」施策への対応として開始された。とりわけ、学務当局が県・郡教育会と共催で実施した千葉県郷土教育展覧会は、1931（昭和6）年度から1933（昭和8）年度まで3年間、全県的に展開し、県下455校のすべての小学校・実業補修学校が出品・参加するなど、県下各校に郷土教育への取り組みを促す重要な施策であった（1933年度。計1187点。個人出品含む）。

1931～1932（昭和6～7）年度は県下7会場で開催され、1933（昭和8）年度には県下10会場の予選会を経て千葉市内で本会が開催された。豊岡小学校は、1931（昭和6）年12月に開催された第1回千葉県郷土教育展覧会に「労作による郷土的学習の実相」「郷土の副業」の2点を出品、翌1932（昭和7）年の第2回千葉県郷土教育展覧会には「労作体験を基調とせる我校郷土教育」1点を出品し、ともに「特選」に選ばれている。その継続的な取り組みの成果は、1933（昭和8）年12月の第3回千葉県郷土教育展覧会に「我が校郷土教育」として出品され、「特選」校に選出された全県4校のうちの一つとなった⁷。

千葉県下の郷土教育は、他県と比して、学務当局の施策を中心として全県的に展開した点に特徴を持つが、とりわけ豊岡小学校の取り組みはその施策へ積極的に呼応した事例として位置付けることができる。

それでは学務当局による郷土教育施策のねらいは何であったのか。1920年代前半において千葉県師範学校附属小学校が展開した「自由教育」は県内外に広く普及していた。県内公立校への普及を問題視した学務当局は、まず1927（昭和2）年に「小学校教育改善要項」を制定し、「自由教育」に代わる新たな教育実践のあり方を提示した。公立校でなされていた「自由教育」の実践が、教授細目や授業案ひいては国定教科書を中心とする既存の教育内容を軽視する、あるいはそうしかねない状況にあるとの認識に基づくものであった。その「小学校教育改善要項」の基調とするところが「教育の郷土化」であった。土地の状況に立脚した着実な学校経営・教育方法を促すことで、「自由教育」普及の問題状況の克服を企図したのである⁸。

さらに学務当局の「教育の郷土化」施策は、師範学校附属小学校を県下の教育研究の拠点として、そこに教育方針の拠り所を見い出す傾向が強かったそれまでの小学校の教育実践・教育研究のあり方を変えようとするものであった。つまり、各小学校が附属小学校の模倣ではなく学務当局の方針の下で地域の状況に基づいた主体的な学校経営を展開していく状況を作り出すことで教育実践の転換を図る施策であった。郷土教育展覧会の開催もそれまでの講習会・講演会といった形式ではなく、県下すべての小学校の具体的な取り組み・実践を可視化させた点に特徴があった。そこには、他校の取り組みを意識させることで改革を促進する効果もあった。

こうして始動した学務当局の「教育の郷土化」施策は、その後、1930（昭和5）年以降の全国的な郷土教育隆盛の動向に乗じて、『教育の郷土化に就いて』の編纂（1931年）、そして千葉県郷土教育展覧会へと展開していく。その結果、実質的に附小「自由教育」から郷土教育への移行を図った学務当局の施策は成功した。1933（昭和8）年度に学務当局が選定した「特選」4校の中に男女両師範学校附属小学校は入らず（「入選」84校のうち1校に選定）、「特選」校がいずれも地域公立校であった点にその意図が明確に現れていた⁹。

以上のように豊岡小学校の郷土教育への取り組みは、1920年代後半から1930年代前半における教育実践の転換と千葉県学務当局の教育施策の成果をうかがうことのできる一つの窓口として位置付けられるのである。

3. 写真帳「我が校郷土教育施設経営の断面」について

現在、千葉県茂原市立豊岡小学校に所蔵されている（2010年9月時点）、「我が校郷土教育施設経営の断面」（1934年）は、写真1のように市販の写真アルバムを使用して作成された全25ページの写真帳である。その内容の一覧を示せば、表1（次頁）のようになる。主として写真とその説明文から構成されている。それぞれ題名が付けられた30枚の写真（1枚欠損のため29枚が現存）は、多少の大きさの違いはあるが、ほぼ通常の郵便葉書と同じ大きさで、1ページ分の台紙に1枚ないし2枚貼付され、その下部または横部に説明文が付されている。

一例として写真2を示す。1ページを使用して写真と説明文がある。写真2「草刈実習」のように、写真に児童、教員がともに写されていれば、表中の「写真」欄の「児童」・「教職員」欄に「」を付している。「草刈実習」の説明文は250字程度であり、「大」に分類している（「小」は50字程度以下のもの）。

写真帳作成の目的に関して同校は、「その〔郷土教育の引用者〕施設や経営を永く記念するために当時の実体を撮影したもの」であると同時に、「もち論この写真も当時の出品物であつた」と「前書」で述べている。すなわち、活動内容の記録であり、かつ自校の活動を郷土教育展覧会の審査者の評価に供するという目的を持つものであった。当然、写真帳を構成する写真は、自校の取り組み・実践の経過や課題、問題点の抽出よりも、郷土教育展覧会において高評価が期待できる内容・場面が選定、あるいは作成されることになる。

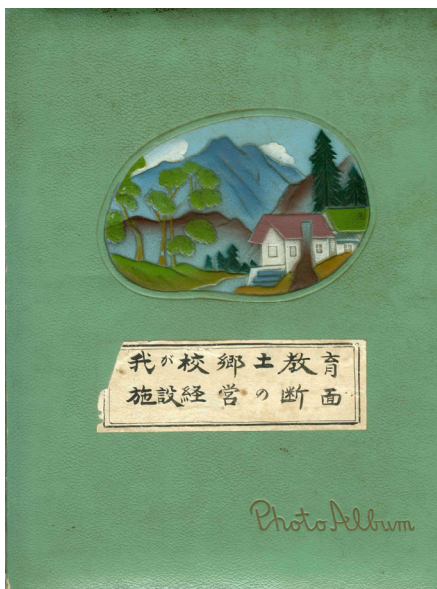


写真1 「我が校郷土教育施設経営の断面」表紙

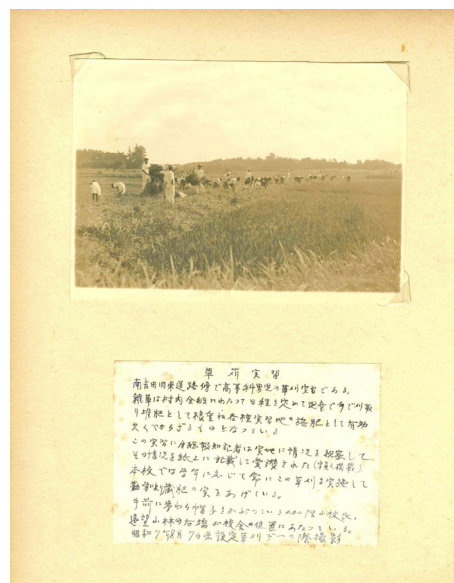


写真2 内容の一例（「草刈実習」史料番号9）

表1 写真帳「我が校郷土教育施設経営の断面」の内容一覧

史料番号	題目	分量	写真			説明文	備考
			有無	児童	教職員		
1	前書	2頁	無	-	-	-	写真帳製作の主旨
2	鑑賞池	1頁		×		(大)	
3	校庭校舎と学級園の管理	1頁	欠	-	-	(大)	写真が欠損。
4	神饌田	1頁				(大)	
5	郷土教育展覧会 其の一	半頁		×	×	(小)	1931年校内展覧会
6	郷土教育展覧会 其の二	半頁		×	×	(小)	1931年校内展覧会
7	同人の面影	半頁		×		(小)	1931年校内展覧会
8	水稻初穂の奉献式	半頁				(小)	
9	草刈実習	1頁				(大)	
10	水田農業実習地	半頁				(小)	
11	児童の労作	半頁				(小)	
12	養鶏	1頁				(大)	
13	養兔	半頁				(小)	
14	学用品の分配	半頁				(小)	
15	共同園	1頁				(小)	
16	堆肥積込	半頁				(小)	
17	竹細工の実習	半頁				(小)	
18	体操	半頁				(小)	
19	精米実習	半頁				(小)	
20	富士見ヶ池	1頁				(大)	
21	開墾実習	半頁				(小)	
22	自由運動	半頁				(小)	
23	校歌の指導	1頁				(小)	「校訓」も記載
24	郷土唱歌	1頁	無	-	-	-	校歌の歌詞
25	教材園	1頁				(小)	
26	水門実地踏査	半頁				(小)	
27	畑の実習	半頁				(小)	
28	郷土読本	1頁		×		(大)	
29	郷土室	1頁				(大)	

30	郷土教育展覧会	1 頁		×		(大)	1933 年県展覧会
31	郷土教育展覧会	1 頁		×		(大)	1931 年県展覧会
32	郷土教育展覧会	1 頁		×		(大)	新聞記事切抜。1933 年

4. 写真の中の「郷土教育」

ここでは写真資料の分類・整理によって、そこに映じた「郷土教育」の内実を明らかにする。まず、29 枚の写真の内容を大別すると、教育-学習活動、郷土教育展覧会、その他に分けることができる。以下、この 3 点についてそれぞれ見ていくこととする。

(1) 教育-学習活動

表 1 において「写真」欄の「児童」「教職員」の両欄ともに「 」が付された 21 枚と「鑑賞池」（史料番号 2）の計 22 枚が、 の教育-学習活動に該当する。写真総数の 4 分の 3 以上を占めていることから、教育-学習活動が同校の郷土教育の柱として明確に位置付けられていることがわかる。教育-学習活動に分類した写真は、さらに a.郷土教育施設を中心としたもの、b.児童の体験・作業を中心としたものに分けられる。

まず、a.郷土教育施設を中心としたものに該当する 6 枚を示す。



写真 3 鑑賞池（史料番号 2）



写真 4 神饌田（史料番号 4）



写真 5 水田農業実習地（史料番号 10）



写真 6 富士見ヶ池（史料番号 20）



写真 7 教材園（史料番号 25）



写真 8 郷土室（史料番号 29）

郷土教育施設といっても、いずれも児童、教員の活動風景が重ねて写し出されている。そこには、単に郷土教育施設の設置・整備といった問題を越えて、それを活用した実践が日常的な学校教育の営みの中で展開していることを示そうとする姿勢がある。第1回郷土教育展覧会の際に学務当局が、出品物の傾向として児童の教育活動上に位置付いていないことを指摘した¹⁰が、その問題点に配慮し、応えるものとなっていることがわかる。

bは上の教育施設の活用とも関わるが、aに比して児童の体験性・活動性に主眼が置かれているものである。以下、8枚の写真を取り上げる。



写真 9 開墾実習 (史料番号 21)



写真 10 堆肥積込 (史料番号 16)



写真 11 精米実習 (史料番号 19)



写真 12 児童の労作 (史料番号 11)

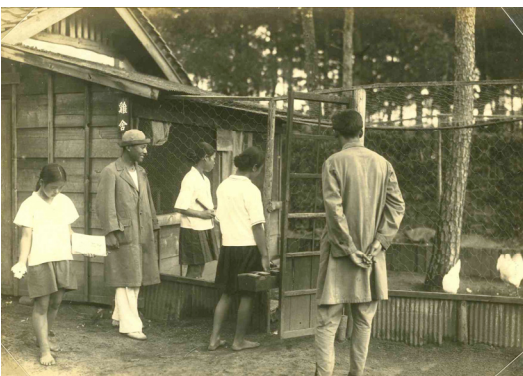


写真 13 養鶏 (史料番号 12)



写真 14 養兔 (史料番号 13)



写真 15 学用品の分配（史料番号 14）



写真 16 水門の実地踏査（史料番号 26）

多くを占める農作業に関わる活動は、農村である豊岡村における児童の生活現実に深く関わっている。同様に豊岡村の副業であった養鶏の作業の風景も収められている。

以上のように、a、bはともに、児童が教員とともに活動している姿を写し出している。先に述べたように、同校は児童と教師の共同作業による労作を郷土教育の一つの柱としており、千葉県郷土教育展覧会には第1回、第2回ともに労作の研究成果を出品し、高い評価を受けている。さらに写真に写し出された施設が児童と教師の共同作業によって建設されたことを示す説明文も散見される。

たとえば、「養鶏」（史料番号 12）では「昭和6年6月初旬挿秧休業を利用して職員高等科児童の共同労作で鶏舎を建築」、「養兔」（史料番号 13）では「養兔の小屋は職員児童が共同に工作したもの」、「教材園」（史料番号 25）でも「昭和六年五月児童職員が共同作業で造営したもの」などである。その意味で児童が教員とともに活動する様子は、同校の郷土教育の特徴を印象付けるものとなっている。

（2）郷土教育展覧会

郷土教育展覧会に分類できる写真は6枚、全体の約2割に当たる。表1では史料番号5～7（写真17～19）、同じく30～32（写真20～22）が該当する。

史料番号5～7は、1931（昭和6）年に豊岡小学校内で開催した展覧会の風景を撮影したものである。史料番号5（写真17）が「郷土の副業」、同6（写真18）が「労作による郷土的学習の実相」と題された展示であり、それぞれ同校が1931（昭和6）年に開催された第1回千葉県郷土教育展覧会に出品した内容を示している。同7（写真19）は「郷土の副業」の展示物を背景にした9名の教員の記念写真である。

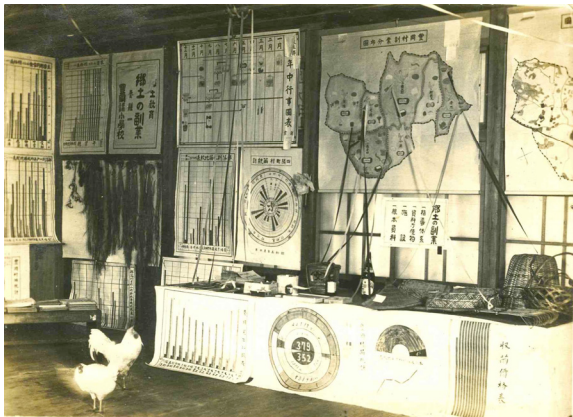


写真 17 郷土教育展覧会（史料番号 5）

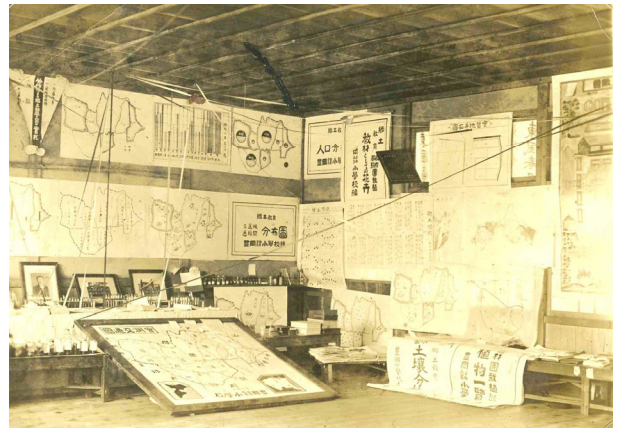


写真 18 郷土教育展覧会（史料番号 6）



写真 19 郷土教育展覧会（史料番号 7）

一方、史料番号 30～32（写真 20～22）の写真のうち 31（写真 21）は、同校が 1931（昭和 6）年の第 1 回千葉県郷土教育展覧会に出品し、会場校の長生郡茂原尋常高等小学校講堂に展示された時のもので、説明文から校長深山隆が撮影した写真であることがわかる。内容は如上の 3 点の写真と同様と思われる。これら第 1 回千葉県郷土教育展覧会への出品物は、長生・夷隅の 2 郡の参加校の中で「特選」に選定されており、「本校の出品物は講堂のほぼ三分の一を占有してその出品物の数量とその展覧会の趣旨に添っていた点では他にその比を見なかつた」との説明が写真下部に付されている。

1932（昭和 7）年に夷隅郡御宿小学校を長生・夷隅郡の合同会場として開催された第 2 回千葉県郷土教育展覧会においても「特選」に選ばれた同校は、翌 1933（昭和 8）年千葉市千葉高等小学校を会場として開催された第 3 回千葉県郷土教育展覧会に出品し、三度「特選」に選ばれた。「特選」に選定されたのは、千葉県下の全小学校のうち 4 校であった。史料番号 30（写真 20）は、第 3 回千葉県郷土教育展覧会で「特選」を得た当日の記念写真である。深山校長をはじめ全職員と豊岡村の川崎村長が写真に収まっている。史料番号 32（写真 22）はこのときの賞状授与の様子が『朝日新聞（千葉版）』に掲載された時の記事の切り抜きである。

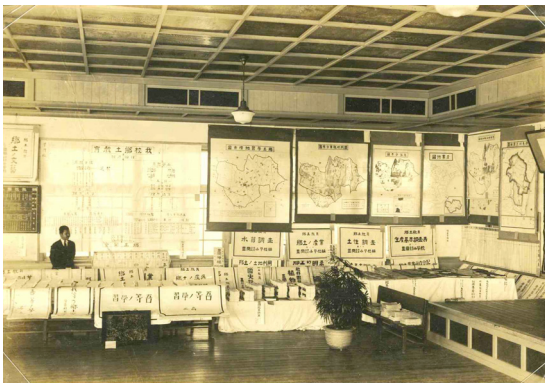


写真 20 郷土教育展覧会（史料番号 31）



写真 21 郷土教育展覧会（史料番号 30）



写真 22 郷土教育展覧会（史料番号 32）

（3）その他

教育-学習活動、郷土教育展覧会に該当しない「郷土読本」（史料番号 28、写真 23）は、教員の「郷土読本」作製の様子を収めた写真である¹¹。豊岡小学校では、この時期に尋常科 1 年から高等科 2 年まで 8 学年のそれぞれに 1 冊の郷土読本、計 8 冊を編纂している（現在、同校にはこのうちの 7 冊が所蔵されている。写真 24 『豊岡郷土読本』はその 1 冊）。

写真に付された説明文には「印刷製本一切職員の手になり別に郷土読本教授指針を編さんして之を教授細目に編入し読本科に連絡してその教材の補充材料取扱としてこの読本を使用した。〔中略〕この写真は夜間郷土読本作製中の場面で編纂書冊を検閲する者印刷に従事する者書冊のわきクローズをつけるものこれを裁つ者等夫々の分担によつて進捗されている前通りには裁ちくずか山と積まれている」とある。この写真は、郷土読本が教職員の手による献身的な共同作業によって作成されたことを示すものであり、その様子を写した貴重な史料なのである。



写真 23 郷土読本（史料番号 28）



写真 24 『豊岡郷土読本』

しかし、重要なのはその点に止まらない。問題はその姿勢が誰に向けられたものであったのかにある。

まず、写真の構図を見てみよう。写真は一方向から郷土読本作成に関わっているすべての教職員の作業内容が収まるような構図がとられている。言い換えれば、狭い空間にひしめき合っている作業は効率が悪いことが推測される。また、写真中央部に鮮明に写る「豊岡郷土読本」「巻一」などの張り紙の存在や高く積み上げられた製本済みと思われる読本も実際の作業の上では必然性が低い。さらに中央位置の男女教員の嬉々として作業に取り組む様子も学校の姿勢を印象づけるものとなっている。

そこには、千葉県郷土教育展覧会に意欲的に取り組んでいた豊岡小学校が、自前で郷土読本を作製するという積極姿勢に加えて、教職員が一丸となって教育実践に取り組む姿を見せる、すなわち学務当局の教育施策を忠実に具体化する姿を見せるというねらいがあったことがわかる。

千葉県学務当局が展開した郷土教育施策は、「自由教育」から、それに代わる新たな実践を普及させるとともに、附属小学校を中心とする教育実践のあり方を、学務当局が一元的に示す教育方針に学校側が積極的に呼応する体制へと変えようとするものであったことは既に述べた¹²。

「昭和初期郷土教育」は、その転軸機の役割を持つが、この1枚の写真はそのような学校側の変化を鮮明に映し出す史料である。

5. おわりに

写真帳「我が校郷土教育施設経営の断面」を通して、文書史料では捉えきれない郷土教育の具相を明らかにし、それに取り組む学校側の姿勢・課題認識を検討してきた。

千葉県郷土教育展覧会への出品物でもあった「我が校郷土教育施設経営の断面」は、そこに児童と教員がともに活動している様子を写真に収めることで、同校の郷土教育の実践が地域社会や学校生活の中に位置付いていることを示すものであった。同時に千葉県学務当局の方針を忠実に具体化する学校側の姿勢もこの写真を通して示そうとした。

1920年代後半から1930年代における教育実践の転換と、地方学務当局と教員社会の関係性の変化を、これら写真史料はより鮮明に伝えてくれるのである。

註

- ¹ たとえば、海老原治善『現代日本教育実践史』（明治図書、1975年）、影山清四郎「郷土教育運動」（『歴史公論』第83号、1982年）。
- ² 伊藤純郎『増補 郷土教育運動の研究』（思文閣出版、2008年）、小国喜弘『民俗学運動と学校教育 民俗の発見とその国民化』（東京大学出版会、2001年）がある。
- ³ 外池智『昭和初期における郷土教育の施策と実践に関する研究-『総合郷土研究』編纂の師範学校を事例として-』（NSK出版、2004年）、斉藤太郎「昭和前期郷土教育における郷土人認識-茨城県師範学校他『総合郷土研究』（1939）の県民性論覚え書き-」（『筑波大学教育学研究集録』第21集、1997年）他。
- ⁴ 板橋孝幸「昭和戦前期秋田県における郷土教育運動と地方教育会-農村の小学校を重視した施策の転換に着目して-」（梶山雅史編『続・近代日本教育会史研究』学術出版会、2010年）。
- ⁵ この他に拙稿「昭和初期郷土教育におけるカリキュラム改革とその意義-千葉県長生郡豊岡尋常高等小学校の事例を通じて-」（『茨城大学教育学部紀要（教育科学）』第55号、2005年）がある。
- ⁶ 豊岡尋常高等小学校の郷土教育の取り組み・実践に関する史料には、次の ～ がある。「郷土教育実際の体系」（1931年）はB5判、全16ページ。豊岡尋常高等小学校「郷土教育直接指導体系」（1931年）はB5判、全85ページ。「郷土教育における農村読方教育としての実際」はB5判、全55ページ。豊岡尋常高等小学校「我が校郷土教育」（1933年）はB5判、全262 ページ。いずれも現在は千葉県文書館に所蔵（調査時は千葉県総合教育センター所蔵）。
- ⁷ 拙著『近代日本教員統制の展開-千葉県学務当局と小学校教員社会の関係史-』（学術出版会、2010年）。
- ⁸ 同上。
- ⁹ 同上。
- ¹⁰ 同上。
- ¹¹ 「郷土読本」の写真は、同上書の表紙カバーに使用している。
- ¹² 前掲『近代日本教員統制の展開』。

謝辞

「我が校郷土教育施設経営の断面」他の史料調査と閲覧、活用に際し、千葉県茂原市立豊岡小学校校長中村一男先生にはご便宜をお図りいただいた。ここに感謝の意を記したい。

(2012年 11月 12日提出)

(2013年 1月 11日受理)